

令和5年度 藤島地域教育振興会議（第5回） 会議録（概要）

1 会議の開催概要

○日 時 令和5年6月2日（金）18時30分～20時20分

○場 所 鶴岡市藤島庁舎3階大会議室

○出席委員 17人

齋藤昭彦、高橋和夫、成田信一、高橋俊一、近藤直志、菅原治、
今野貴行、須貝高貴、中田英幸、佐藤謙、安在堅、前田範子、
渡部高生、遠田良弘、井上佳奈子、齋藤直美、武田洋

○市出席者 〈教育委員会〉

教育長 布川敦、教育部長 永壽祥司、参事兼管理課長 清野健、
学校教育課長 今野新一、学校教育課指導主幹 渡邊智、
管理課課長補佐 奥山真裕、学校教育課指導係長 落合正幸

〈藤島庁舎〉

支所長 成田讓、総務企画課長 小林雅人、市民福祉課長 出村真一、
総務課課長補佐 後藤春雄、総務企画課地域まちづくり企画調整主査 齋藤優

○傍聴者 9人

○会議次第

1 開会

2 挨拶（藤島地域教育振興会議委員長）

3 説明・協議

（1）地区説明会で寄せられた意見等の報告と取扱い、今後についての意見交換

資料No.1、No.1（別紙1、2、3）

（2）保護者アンケートについて 資料No.2

4 その他

5 閉会

2 会議録

■次第3 説明・協議

(1) 地区説明会で寄せられた意見等の報告と取扱い、今後についての意見交換

(委員長) それでは説明・協議事項(1)について事務局より説明をお願いします。

(管理課長) 資料No.1、資料No.1(別紙1、2、3)、を説明

(委員長) 先月開催された地区説明会で、住民からどのような意見等が寄せられたか報告いただいた。様々なご意見を7項目に分類し、取扱いについて案を示していただいた。また、ご意見を踏まえて教育委員会事務局の現状認識を報告いただいた。これらを受けて委員からお考えをお聞きしたいが、当振興会議において、昨年度第4回会議では、第3回会議のグループ協議等の結果を踏まえ、施設については、小学校と中学校の施設一体型の義務教育学校または併設型小学校・中学校を開設するという方向性で協議を進めていけばどうか、あわせて、その場合の課題を検討していこうと方向性を確認したが、その方向性で進めていってよいのか、あるいは、ご報告頂いた地区の皆様から寄せられたご要望等を踏まえて、特に配慮しながら協議しなければならないことなどあるのか、皆様からご意見をお聞きしたい。その前に、報告頂いた内容で質問があればご発言をお願いします。

(委員) 資料1別紙1に各地区説明会場の質問について記載があり、当日、質問に対する回答がなされたと思う。その回答を知りたいが、頂くことは可能か。

(管理課長) 質問に対する回答については、藤島地域教育振興会議の議論において重複している部分があったため、全てを説明することは時間の関係上割愛したが、質疑経過は資料としてまとめてあるので、皆様に追って資料を提供したい。

(委員) よろしくをお願いします。

(委員長) 地区説明会で出された質問については、Q&A集で示されているものもあるので、その点と重複しないように資料を提供いただきたい。

(委員) 委員長が方向性と話されたが、この会議で方向性がどのように決まるのか確認したい。振興会議の議論や意見を否定する声は特になくのことだが、それぞれ言いたいことを言いつつなして、それに異論はなかったということではなく、全体の雰囲気や方向性について反対はなかったのかなど確認したい。

(委員長) 藤島地域教育振興会議の方向性は、3月の会議で確認した今年度の協議の方向性である。それについて反対するような意見等は地区説明会の中では出されなかったという理解だがよろしいか。

(管理課長) 先ほど委員長より説明があったが、第4回会議で意見として整理をした義務教育学校あるいは併設型の小中一貫校の選択肢についてだが、皆さんの意見としては、まず中学校と小学校は一緒に改築したほうがよいのではないかという第3回のグループ協議で大勢だった。だが、小中一貫校、義務教育学校でよいのかという慎重な意見もあったことから地区説

明会で合わせて説明している。中学校改築と合わせた小学校の改築が、藤島地域教育振興会議での大きな議論の方向性と説明会で報告している。

(委員) もう1つ確認だが、今後の話し合いの方向性は、一貫は決まりで、併設型にするか一貫校にするかという方向をこの会議で話ししていくのか。

(委員長) その方向になっていくと思う。それについて、3月の段階では地区の方々のご意見、ご要望等は伺っていないので、今回、改めて地区の方々のご意見、ご要望をお聞きした。それを踏まえて、このまま3月に話し合った方向性で協議を深めていってよいのか、あるいは、もう少し別の角度からそれらを検討し直す必要があるのか、その点を皆さんのご意見を賜りたい。中学校の改築と絡んでの方向性なので、学校建設としてどういう方向になるのかが重要となる。小中一貫教育だけでないので、難しい問題もあるかと思うが、地区のご意見等を踏まえて、今現在、委員の皆さんがどのように考えているのかを一人ずつ発言をいただきたい。

(委員) 今回の住民説明会だが、全体で95人の参加、そのうち保護者が26人で、長沼地区説明会でも全体で17人、他地区からの参加もいたが14人位かと思う。このように説明会を開き住民に対し説明をしたという前提は成り立つが、果たして、この参加人数で住民全体からの意見を聞いたと評価ができるのか不安である。まだ地域全体で関心が低いような気がする。参加された方もそのようなことを言っていたが、今回の地区説明会について、教育委員会ではどのように評価するのか、人数は想定範囲なのか知りたい。

(委員長) 参加人数から考えて、十分、地域住民の声を反映したものになっているかどうかだが、事務局より説明をお願いします。

(管理課長) 説明会を開催するにあたり、説明会にはなかなか集まらないのではないかという意見は藤島地域教育振興会議でもあり、大勢の方々から参加いただいたというところには至っていないと思う。PTAの方々からも、SNSを通して参加を呼び掛けて頂くなど、参加に向けてのさまざまなPRをしてきたが、参加が伸びなかった印象である。ただ、藤島地域教育振興会議のメンバーの何倍の方から、さらに意見を頂いたことは紛れもない事実である。また、ここでまとめたことが、そのまま藤島地域の教育環境の整備に直結するものではなく、この後、もう一度説明会を予定し、アンケートも実施する。アンケートに際しても、先に説明会を開催し、その後、アンケートを実施する予定である。できる限り手を尽くして、皆さんの意見をお聞きしながら、藤島地域の全体の流れとしてまとめていけたらと思うので、ご協力をお願いしたい。

(委員長) 参加者が少ないので、関心が薄いのではないかと心配されている部分も多いと思うが、まだ、方向性のようなものが具体的に出ていないために、話を聞いてもつかめないところがあり、参加に対する関心が低いのではないかと考える。今後、方向性を煮詰めていき、おぼろげながらも具体的なものが見えてくれば、様々なご意見、ご要望がはっきりしてくると思う。現時点で結構なので委員のお考えを集約し、地域の方々に藤島地域教育振興会議では、このような方向で議論を進めていると示せば、地域の関心も高まってくると考える。それで

はご発言をお願いする。

(委員) 将来、藤島の教育環境をどうするのが藤島地域教育振興会議の一番の目的である。教育内容や教育課程は先生方が専門なので、学校教育法に基づいた教育を進めることについて、私たちが話しすることではないと思う。ただ、20年後、30年後に、どういう学校があれば、子どもに最も良い教育環境を与えられるのかという方向性を決めるのが会議の趣旨である。少子高齢化、人口減少により児童生徒が減少する中で、複式学級が発生し、今後もその流れにある。それは恵まれた環境にあるのかというと肯定できない部分もたくさんあると思う。そういう意味では、小中を一貫して藤島地域として1つの学校、1つの小学校ということ、当然、考えなければならないと思う。教育環境には、学校の教育環境だけでなく、地域社会に関わっていく中での教育環境もある。どうあるべきかについて、文厚地域として一箇所にまとめて色々な施設をつくり、得意・不得意・苦手なことを、好きな先生、大事な友達と共に学べる環境をつくるにはどうあるべきかということを考えていけばよいのではないか。小中一貫教育は令和7年から始まるので、それはそれで良いし、私たちにとって良い環境づくりのため、渡前小、東栄小は複式学級の状況があるので解消していかなければならない。細かい意見ではなく、将来に向かって広がるような意見として考えるべきと思う。小中一貫教育の3つの形態はあるが、藤島地域にとって将来、どの選択が最も適しているのかということについて、ほとんどの方が小中一貫校または義務教育学校がよいということであれば、その2つの選択肢で、どちらがよりいいのかについては、別の課題の中で話し合うべきではないかと思う。私として今のところは、義務教育学校という方向性をもって、話題を進めていったほうが、説明も楽だし、説明を受ける住民にとっても分かりやすいのではないかと思う。住民に対して、藤島地域教育振興会議の意見としてきちっと言った方が、議論が進むのではないかと思う。

(委員長) 小学校1校、中学校1校という方向で、話し合いを進めていくべきという意見である。

小中一貫校にするか、義務教育学校にするかは、その先の話というご意見で承る。次にお願いする。

(委員) 私としては、小中一貫校に賛成である。地区説明会には、自分が思っていた以上の方から参加いただき、おおよその意見は出たのではと思うので、また大々的に(説明会を)する必要はない。一番は、中学校改築が喫緊に迫っているので、小中で一緒にやったほうがよい。

(委員長) 中学校改築に合わせて小学校も一緒に改築できるような形で進めたらとよいというご意見で承る。次にお願いする。

(委員) 先が見えず、もやもやとしているので、何を話したら良いか分からない。

(委員長) 後ほどお願いする。次に、お願いする。

(委員) 私も明確に、どちらが良いのか言えるような所まで考えがまとまっていない。今回の説明会で、保護者の方から、9年間リーダーが固定化しないように頑張してほしいと意見があり、その可能性があると感じた。これから子どもは段々少なくなっていくので、藤島地域全体が集まっても35人以下になる可能性もある。その場合、リーダー的な存在が継続してい

く可能性があるのではと危惧を感じた。萩野学園校長の話のように、4年 - 3年 - 2年のような形を取り、この時はこの人がリーダー、この時はこの人がリーダーというように、皆がリーダー的な場で活躍できるような学校にならないのではと思う。立派な制度と器を作ったとしても、それを動かすのは人間なので、いかにうまく運営、運用していくか、人間の情熱によって学校での教育も変わると強く感じる。私も、義務教育学校が良いのか、まだ考えがはっきりとしない。説明会では3つの形態を知らずに参加した方がいたので、その意味では、ある程度住民ベースで理解を得られたのではと思う。私自身も、今回の意見を踏まえながらいろいろ考えていきたい。

(委員長) 義務教育学校も良いが不安もあるというご意見と承る。次にお願ひする。

(委員) 都合で地区説明会に参加できなかったが、5地区全てで説明会が行われ、肯定的な意見、不安視する意見など多くの意見が出されたことは有意義と思う。今の段階では、さまざまな意見が出されるのは当然であるが、事務局より、多くの意見を系統立てて整理頂いていると感じる。取扱い案については特にないが、一部、教育振興会議で議論されていることが正しく理解されていないと感じられる意見については、引き続き丁寧な説明を継続して頂きたい。参加者について、母数に対して藤島地区が少ないと感じるところだが、今後、アンケートも検討されていて、私もPTAの中で関心を高めていくように努めたいと考えている。私は、今のところ、昨年度までの会議を通して義務教育学校に魅力を感じるころだが、出された意見のなかで、教育は国家100年の大計という話もあり、現在、小学校、中学校が分かれている状況で、分散型の小中一貫教育を選択し、後である時、小中一貫校を選んでおけば良かったとなっても、大切な100年間を失うことになる。これからの説明会では、このようなところも伝わっていけばよいのではと感じた。

(委員長) 義務教育学校の方向で、より丁寧に説明をしていくのが良いというご意見と承る。次にお願ひする。

(委員) 何回かPTAの集まりの中で話をし、地区説明会にも参加した。小中一貫の形態をどうするかという話をしていると思うが、地区の人と話をすると、それよりもまず、小学校がなくなることが必ずついてくる。小学校の統廃合がどうしても話題になり、小学校がなくなってもよいのかという部分と一緒にしたほうが良いのではという部分の話が出てくる。現在、全体的な話を聞いているなかでは、統廃合をして、併設型か義務教育学校へまとめていく方向に対して前向きな意見が多いという感じがする。その方向で進めていけばよいのではと思うが、それには条件があり、この条件をクリアできなければ、既存の方向という選択肢もあるのではと思う。条件は2つあり、1つは通学である。子どもが9年間、安心して通学でき、親も安心して送り出せる、そのような通学方法の確立を早期に出していくことが大事と考えている。それが出来なければ、東栄から子どもがいなくなってしまうのではと感じている。もう1つは、地域の理解と協力である。小中一貫の方針にあるように、コミュニティ・スクールと小中一貫教育は両輪だが、コミュニティ・スクールは地域の理解と協力がとても大事なので、地区会長からは前向きなお話があったが、地域の協力と理解がなければ、地域がバ

ラバラになってしまうという危険があるので、そこを丁寧に話していきながら前向きに検討していきたいと思う。

(委員長) 義務教育学校の方が半数を超えるのではないかということだが、条件として通学に対する不安があること、また、地域理解が必要であるので、それを得なければ協力も得られないだろうというご意見と承る。次にお願いする。

(委員) 今年から委員として参加しているが、会長になって2か月ということもあり、保護者の意見を多く拾っているわけではないが、聞こえてくる話としては、小学校が複式学級で、今年の新入生は2人でその教室も見てきたが、やはり、義務教育学校として合併して、1クラス35人くらいの大きなクラスに憧れる親が多いと思う。地区説明会に参加したが、嫌だという意見はなく、どちらかというところ、そのようなこと(小中一貫校)になった時に、このことはどうなるのかという意見が多かった。小中一貫教育の義務教育学校の方向に理解があるのではと説明会に参加し感じた。地域のことで今後どうなるのかということはあるが、長沼の声を聞きたいと個人的に思う。藤島小と一緒に数年たつたので声を聞ければと思う。7月に説明会があるとのことだが、義務教育学校という方向性を決めて説明会を行ったときに、結果ありきではないかと思われることを心配するので、あまり方向性を示さずに説明会で意見を集約したほうがよい。

(委員長) 学校がなくなることの不安は、小さい学校の場合はあると思う。長沼地域では統合後の様子を知りたいのご意見と承る。次にお願いする。

(委員) 個人的な意見だが、小中一貫教育は進めるべきと思う。小中一貫校についても個人としては賛成で、そちらで進めたほうが良いと思う。少子化は見えているので、国では子どもに関する予算を考えているようだが、子どもが増える未来は想像できないので、合併という形態にはなるかと思うが、それを前提に具体的な意見があるので、それを取り入れることを前提に、前向きに検討して頂ければと思う。私は、藤島地域と一緒になれば、子ども達も一緒になると同時に、親もいろいろコミュニケーションが取れるので、PTAとしては良いのではないかと思う。PTAのよい話題がメディアではないが、(一緒になることで)PTAとしても良い方向になるのではないか。

(委員長) 少子化の現状を踏まえれば、小中一貫校が良いのではないかというご意見と承る。次にお願いする。

(委員) 個人的な意見だが、小中一貫教育、小中一貫校とも賛成である。方向性としてよい。地域から理解を得ることなど、地域との関わり方は難しいと思う。子どもがリーダーを経験できることを進めてもらいたいということもあるが、私自身、リーダーをしたくない子どもだった。どちらかというところサブで頑張るほうだった。多様性と言われるが、その子にとって一番伸びるやり方、方向性ができる教育環境が一番良いと思う。無理に苦手なところをさせるのではなく、苦手なことはその子が無理しない程度でよく、むしろ伸びる部分を最大限発揮できるように、地域との関わりも含めて、その子が伸びる環境ができるように会議を進めていけたらと思う。

(委員長) 小中一貫校の方向というご意見と承る。次にお願ひする。

(委員) 個人的な意見だが、昨年の会議で9年生の話があったが、自分の経験では小学6年、中学3年とやってきたので、9年は飽きるのではと思った。自分が経験していないので分からないのかもしれないが、自分の子どもが9年間、同じところに通学するのはどうなのか不安の面はある。これからの会議で、いろいろな話を聞いて、その辺を理解していきたい。

(委員長) 9年間、同じ学校に通うことは飽きることもなくはないのではというご意見と承る。次にお願ひする。

(委員) 保護者であれば良い教育環境や子どもの良い育ちを望んでいると思う。説明会に参加された方から反対や否定の意見がないことは、小中一貫校に対して前向きに理解してくれているのだと思う。今後も説明会やアンケートなどあるが、今話し合われている施設一体型(義務教育学校)と併設型(小学校・中学校)のことについて、より具体的に話せば理解も深まるし、地域の考えもより聞かれるのではないか。児童の保護者や地域の方と話す機会があったが、この話題になり、その人たちは併設型を望んでいるようだった。4年生から高学年になれるという子どもの気持ち、6年生だったら卒業して中学生になれるという気持ち、その時期の育ちを大事にした学校にしてほしいということ saying it so I introduced it.

(委員長) 小中一貫校に対して前向きな保護者が多いようだということ、ただ、区切り、子どもの気持ちの切り替えを大事にした教育を行える環境が良いのではというご意見をもつ保護者がいるというご意見と承る。次にお願ひする。

(委員) 小中一貫教育は鶴岡市が行うのでそれはよいとして、藤島地域でどのような形で落とし込むかということを考えている。現実的に、校舎の老朽化を考えたとき、建て替えるチャンスは今しかないというのが第一の意見である。少子化が大きな問題であり、義務教育学校という教育環境を整えたときに、子どもが増えて、学校に通ってもらうような地域に藤島がなっていけるように、力をあわせてやっていかなければならないのではと考えている。子どもは地域の宝なので、その環境に意見をすることは重要なことだと再認識しながら、統合するときに、学校がなくなった地域の中で、地域と子ども達を結びつけて、渡前、東栄、長沼という地区も子どもが増えて、なおかつ、その中で新しい学校に迎え入れられる環境を作っていきながら、良い方向に進めていけばよいと思う。この間、スポーツ事業で遠征に行き、他地区の指導者と交流を持ったが、明倫学園の保護者と話す機会があった。小中一貫校になって良いこともあるが、施設がスポ少で使えない時があり、他の体育館を借りているという話を聞いた。藤島の場合は、藤島体育館があるので解消しやすいとは思いますが、設備の充実を考えて頂きたいと思う。

(委員長) 校舎改築は今しかなく、子どもや親から選ばれるような教育環境を整備してほしいというご意見と承る。次にお願ひする。

(委員) 昨年度の最初の会議のなかで、今の藤島地区の学校教育に関する問題点が出されたと思う。個人的に一番は、少子高齢化の問題と、学校にとっては小学生が中学校に入学し、とまどいから不適應になる中一ギャップの問題が大きいと捉えた。それを解決するためにも、併

設型か義務教育学校で小中一貫校の特例のメリットを活かし、この機会に建物と運用面を藤島の未来の子どもたちのために、多様性にも対応できるような、新しい環境の中で教育が施されたらと期待している。運用面について、教員の多忙化はあると思うし、地域に小学校が無くなった場合の対応、地域文化の継承や地域の方々との交流の問題、そのようなことは丁寧に地域の方と、方向性が定まった後に合意形成を図っていければと思う。個人的に、図書館が東田川文化記念館の1階にあるが、2階が明治ホールで、上は賑やかで下は静かにしなければならないという間の中で運営している。ぜひ、この機会に図書館を他の地域に誇れるようなものとして併設していただき、地域住民もそこに集まり、地域との交流の場になるようなスペースが作れないかと期待している。図書館だけでなく、地域と交流が図れるようなスペースが必要と思う。

(委員長) 施設の老朽化が課題で、この機会に施設と内容を刷新して進めていき、校舎建設にあわせて、図書館機能等の社会教育面も含めた施設を考えていくというご意見と承る。次にお願います。

(委員) 昨年度の会議や自分の周りの子育て世代にも話を聞いて、今段階ではまだ定まらない状況だが、一番の理想は、小学校が残って、子どもが増えて、一クラス30人位いて、中学校は改築することかと思うが、それには、もっと早くから手を打たなければならず、いま学年が2人になった状態で、急にこの何年でどうしようと言っても、その2人が大変、可哀そうなので、すぐにでも合併したほうがという気持ちにもなる。藤島町が鶴岡市になった後に、どのような形で人口のことに取組んできたのかを感じている。藤島地域でいろいろな町づくり予算があるなかで、何か具体的な対策をしてきたのか、対策をして今があるのかどうか。三川町では小学校は学年2人にはなっていないので、大きな視点で見れば、今この段階になっていないのではないかと。義務教育学校の良いところと悪いところがあると思うが、その前に、渡前と東栄の小学校統合（の話）が一緒になっていることが、藤島中老朽化とタイミングが良すぎると思う。藤島中と藤島小、また、渡前と東栄の人数の少なさがタイミングが良すぎて、この話を最初聞いた時にはピッタリと思ったが、よくよく考えてみると、長沼の話も聞きたいが、義務教育学校にしないで後悔するという話と、地域に小学校を残さなかったことで失うものもあると思う。もし統合の場合は、また違った話合いがあるのかわからないが、小学校統合と新しい小中一貫校、義務教育学校建設を一緒にしている感じがして、そこを考えたらよい。自分が小学生の時のことを考えると、1、2年生の時は徒歩で行ける範囲で遊んだり、放課後は小学校の友達がメインだと思うが、3、4年生は自転車も乗れるようになり、5、6年生だと渡前から大半田に遠征するなど、遊んだりするなかで育ち、中学校になれば中学校全域という形でもっと遠くに遊びに行くこともあったと思う。小学校が藤島に1つだと広すぎて、小学校低学年にとって、今の感覚の小学校の地域の感じがどうなるのか。渡前だと海浜学校や獅子踊りなど地域の人とやっていることが、どのような形でやっっていけるのか。萩野学園は成功例と紹介されているが、実はデメリットもあるのではないかと。萩野学園の校長先生の力量を感じ、人ありきのような感じもするので、もう少し

具体的に分からないと怖い部分もある。今は中一ギャップで中学校に行けないということがあるが、9年間だともっと早い段階で行けなくなる子もいたら、ずっとそうなのかなど心配なところもある。もう少し色々考えていきたい。

(委員長) 学校がなくなることに対する不安やそこから出てくる影響など、不安が多く判断が付きかねるというご意見と承る。次にお願ひする。

(委員) 説明会で寄せられた声で、小中一貫教育や義務教育学校に反対意見がないと感じるので、そこは決まっていくのかと思う。単純に、建物が一体の校舎になるのか併設にするのか決まっていないなかで、これからどのように決めていくのか興味がある。多数決で決めることもできないので、どのように決めていくのか。個人的には、1つの学校で予算をたくさんかけ、伸び伸びと子どもが教育を受けられるのがよい。実際に萩野学園で障がいのある子に中学生が寄り添っている姿を見ていいなと思ったので、1つの学校で、幅広い年齢の子たちが一緒に学ぶことがよいと思う。説明会の意見のなかに、中学生の悪い影響を小学生が受けるのではないかということがあるが、悪いところに焦点を当てるのではなく、良いところに着目すればよいと思う。どんな校風になるのかは学校で決めていくことになるが、そのことを教員ばかりに負担をかけるのではなく、地域みんなで育ていけるような、そのような子どもたちの教育を地域で行うことができると思う。個人的に冷たい言い方になるが、通学の話では、変化に対応していかなければならないのではと思う。長い通学は親としては可哀そうと思うが、他県ではそれよりも長く電車で通学している子は実際にいる。そのように考えると、見守る、子どもを信じるということをやっていくことも致し方がないのでは思っている。

(委員長) 義務教育学校の良さを取り入れて進めていくというご意見と承る。最後にお願ひする。

(委員) 義務教育学校に賛成である。実際に小学校の統廃合はデリケートな話になるが、現状として複式学級が原因となって市内に引っ越している家族や、そのような藤島地区の友人もいる。小学校を残すことが地域との関わりが増えることに直結するのかと考えた時に、それは難しく、やってみないと分からないと思う。方向性を決めていかないと、デメリットと反対意見は必ず出てくるし、どの選択をしても出てくるので、方向性を決めたいうえで、反対意見やデメリットに対して、どのように改善して修正し、みんなが協力して、どの地域の人たちの意見にも寄り添っていきながら進めていくことが、現状として考えられる道と思う。

(委員長) 義務教育学校を推進というご意見と承る。委員のご発言をお聞きすると、小中一貫校としての義務教育学校あるいは併設型小学校・中学校の建設という方向が多いと思うが、不安を抱えている委員もいる。全員一致という方向性であれば望ましいが、そうともならないので、本日出された意見の論点を整理し、次回の資料を準備いただきたいので、事務局よろしくお願ひする。皆さんの意見をお聞きするなかでは、施設そのものは中学校改築に合わせて小学校もこの時期に改築したほうが良いのではないかという方向性が多い。抱えている不安や悩みについて、委員から、ソフト面の学校運営や教育方法、内容は先生方が考えるべきことではないかとあったが、かなりの(不安などの)部分が、教育内容や方法で解消するこ

とができるのではないかと感じた。ハード面とソフト面で分類できるところで、我々がソフト面で意見を申し上げることとして、不安をお伝えすることはできると思うが、こうした方がよいと言えない部分もあるかと思うので、その点も区別しながら、資料を準備いただきたい。長沼地区のお子さんの小学校統合後の様子を聞きたいという要望があったのでご紹介いただきたい。

(委員) 地区説明会で他地区の参加者から同じような質問があった。本日の資料では、資料No.1 (別紙1) の5ページ⑥が該当箇所である。長沼地区説明会では、小中一貫教育に関することだけでなく、地域づくりの論点の意見もあったことから、このような質問があったと思う。教育委員会よりも自治会の方が内容を知っているので、私が回答した。小学校がなくなって5年経過したが、今、保護者から、藤島小に通学しているなかで特に不満や問題点などの話は出てきていない。逆に、子どもたちがいろいろなことができる環境が整ったと保護者は受け止めていると思う。就学前の年長のとき、大方はこりす保育園に通い、そこで、藤島全体の子どもが集まり、小学校に入学するときに従来は分散していたが、長沼の子どもは、そういうことを経験しなくなった。保育園から同じ顔ぶれの子どもたちで小学校に入学できるということは良いし、スポ少なども含め教育環境として良いと保護者は捉えていると思う。一方、地域住民からすれば、子どもたちの顔が見えないということは寂しいが、前任の自治会長が、小学校が月2日くらい1年生から6年生まで一斉下校する日があるが、この日を利用して放課後子ども教室を地区で行いたいと構想を立て、それを引き継ぎ受け実現してから、今年度で4年目となる。今年度、長沼地区には39人の小学生がいるが27人が会員登録し、月2回、3時から6時半まで、宿題をしたり運動を行ったり、色々な体験プログラムを組んで行っている。当初、行政から助成金が貰えないかと取り組んだが条件が合わず、自治振興会の予算で取り組んでいる。月2回ではあるが、子ども達の顔が見える、名前も覚えることができるのと取り組んで良かったと感じている。わんぱく広場という年5回、長沼地区の小学生を対象とした事業を行っているが、これよりも機会が多いので、地域の子どもの顔を見るという意味では良い事業で今後も継続していきたい。書道錬成は、地域に個人の書道教室を開いている人がいて、そこに多くの子どもたちが通っている。夏休みの5日間、書道教室の夏季錬成会を行っており、自治振興会で援助している。けん玉は、月2回、自治振興会で練習会を夕方1時間、行っている。従来のかん玉の伝統を継続していきたいと思うが、学校があった時と同じようにはならない。でも、けん玉をしたい子が来ているので、伝統のかん玉を引き継いでいきたい。運動会は4年ぶりに開催するが、従来よりけん玉リレーという種目があったが、今年度も運動会にもその種目は取り入れている。ボーイスカウトについては、7～8年前から入団する子がいなくなり休団状態である。休団時、鶴岡市内には2つしか団がないということもあり、ボーイスカウト活動は低調になっている時代環境と考えている。まずは子ども達とのつながりは地域で作っていくことであり、保護者の考えとして(小学校統合の) マイナス面がたくさんあるとは思っていないと個人的には考えている。

■次第3 説明・協議

(2) 保護者アンケートについて

(委員長) それでは説明・協議事項(2)について事務局より説明をお願いします。

(管理課長) 資料No.2を説明。

(委員長) ただ今の説明について質問等ないか。特になければ、保護者アンケートについて実施していただくことでよろしいか。

(各委員) 異議なし

(委員長) 異議なしと認める。予定されている議題は以上である。委員から何かお話ししたいことはないか。なければ、これで説明協議を終える。

■次第4 その他

※事務局、委員からなし

3 会議資料一覧

- ・ 次第
- ・ 出席者名簿・席次
- ・ 資料No.1 藤島地域における小中一貫教育の検討状況についての説明会実施報告
- ・ 資料No.1 (別紙1) 藤島地区説明会で寄せられた質問、意見
- ・ 資料No.1 (別紙2) 各地区説明会で寄せられた意見の取扱い(案)
- ・ 資料No.1 (別紙3) 各地区説明会で寄せられた意見等を踏まえた今後の検討の方向性
- ・ 資料No.2 藤島地域における小中一貫教育導入に係る保護者アンケートについて
- ・ 参考資料 藤島地域教育振興会議 開催経過と今後の予定

以上